作新学院大学女子短期大学部履修規程

(趣旨)

第1条 本学の教育課程、履修方法、試験及び実習の評価については、学則第23条から第26条までに定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(授業科目及び単位)

第2条 授業科目の種類及び単位数は、学則第23条第1項別表第1のとおりとする。

第3条 単位計算の基準は、学則第24条による。

(授業時間割表の公示)

第4条 毎学年の授業科目、担当教員及び授業時間割表は、学年の始めに公示する。

(履修届の提出)

第5条 学生は、履修しようとする授業科目を、原則として毎年度始めの所定の期日までに学長に提出し承認を受けなければならない。正当な理由がなく所定の期日までに履修届を提出しない者は、当該年の授業を履修することができない。

2 提出した履修届は、原則として正当な理由なしに変更することができない。

3 履修の取り消しは、所定の期日までに学長に届け出たときに限りこれを認める。

(履修登録の制限)

第6条 前条第1項の規定にもかかわらず、各年次にわたって適切に授業科目を履修するよう、半期に履修科目として登録できる単位数の上限を、原則として30単位とする。

2 1年次において所定の単位を優れた成績をもって修得した者については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることがある。

(履修授業科目修了の認定)

第7条 履修授業科目の修了の認定は、試験によって行う。

(試験の種類)

第8条 試験は、定期試験(各期末)、追試験及び再試験とし、その他必要に応じて臨時試験を行う。

2 通年科目の試験は学年末に行う。ただし、中間評価のために前期末に試験を行うことがある。

(試験の方法)

第9条 試験は、原則として授業担当者が筆記試験で行う。ただし、授業科目によっては、学習報告、提出作品、実技試験及びその他の方法により行うことがある。

2 試験の日程、時間及び教室等は、その都度公示する。

(試験時間)

第10条 試験時間は、原則として90分とする。ただし、授業科目によっては試験時間を変更して行うことができる。

2 試験開始から20分以上の遅刻は入室を認めない。また、30分以内の退室も認めな

い。

(受験資格)

第11条 次の各号の一つに該当する者は、受験資格を有しない。

- (1) 第5条に定める履修届の承認を得ていない者（履修届が不備で届出が無効になった者を含む。）
- (2) 特別な理由なしに学則で定める授業時数に対し出席時数が3分の2に達していない者
- (3) 授業料その他学納金等の未納者

(学生証の提示等)

第12条 試験を受ける者は、学生証を机上に提示しなければならない。

2 試験を受けるに当たって、学生が守るべき事項については、その都度掲示する。

(追試験及び再試験)

第13条 定期試験を病気、就職試験、忌引、事故等やむを得ない事由により、受けられなかった者に対しては、可能な限り事前に本人又は保護者を通して教務課に連絡し、やむを得ない事情を証明できる書類を提出し、授業担当者がそれを認めた場合には追試験を行うことがある。

2 定期試験の結果、不合格になった者に対しては、所定の期間内に再試験料を納付して再試験願を提出した場合は、再試験を行うことがある。

3 修業年限が2年（学則第6条）を満了した学生（見込みを含む）のうち、卒業、免許・資格要件単位数が不足する者で、次の各号をすべて満たす場合には特別に試験を行うことがある。

- (1) 不足する単位数が8単位以内であること
- (2) 当該年次に履修登録された授業科目であること
- (3) 出席日数不足等で評価対象外とされた科目でないこと

(実習科目の成績評価)

第14条 実習科目において実習日数の4分の1以上欠席した者は、成績の評価をしない。

2 前項に該当する場合に、通常の授業に支障のない期間において、当初の実習機関・施設又は他の機関・施設において実習が可能な場合には、再実習させ、成績の評価をすることができる。

(成績の評価及び表示)

第15条 授業科目の成績は、100点を満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

2 前項成績評価は、評価基準に基づき5段階で評価する。

合否	評価基準		成績
合格	授業の到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績	100点から90点まで	秀
	授業の到達目標を十分に達成できている優れた成績	89点から80点まで	優
	授業の到達目標を達成できている成績	79点から70点まで	良
	授業の到達目標を最低限達成できている成績	69点から60点まで	可
	「本学における授業科目の履修」とみなすもの※	段階なし	合
不合格	授業の到達目標を達成できていない成績	59点以下	不可

※ 学則第31条、第32条、第33条等に該当するもの。

3 前項の成績評価に対して GP (Grade Point) を与え、次の基準により表示する。

	成績	GP	点数
(1)	秀	4	100点から90点まで
(2)	優	3	89点から80点まで
(3)	良	2	79点から70点まで
(4)	可	1	69点から60点まで
(5)	合	—	段階なし
(6)	不可	0	59点以下

4 「秀」評価は成績上位 10%程度を目安とする。

5 第13条第2項により、再試験を行った場合の評価は可又は不可とする。

6 成績評価が不可の場合は、その授業科目の単位を認定しない。

(GPA の算出)

第16条 前条の規定による成績評価に対し、次の方法で GPA (Grade Point Average) を算出する (小数点以下第3位を四捨五入)。

2 「合」評価は GPA に算入しない。

$$\frac{\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1 + \text{不可の単位数} \times 0}{\text{履修登録単位数 (不可を含む)}}$$

(GPA の活用)

第17条 前条により算出された GPA は、以下のように活用される。

- (1) 学位記授与式の代表学生選抜については、GPA の高い学生が優先される。
- (2) 各学期の GPA が 2 未満であった学生には、担任から学習指導を実施する。
- (3) 各学期の GPA が 1 未満であった学生には、担任および教務委員長より指導した後、改善が見込まれない場合は、退学勧告を行うことができる。

(4) 各学期の GPA が 1.5 未満であった学生には、各種実習辞退の勧告を行うことができる。

(成績通知票の交付)

第 18 条 成績の通知は、前期については 10 月上旬に、後期については当該年度の 3 月上旬に成績通知書を交付することによって行う。ただし、卒業年次の学生のみ後期は 2 月中旬に交付する。

(再履修の制限)

第 19 条 試験の結果、合格点を得た授業科目は再履修をすることができない。

(不正行為)

第 20 条 不正行為を行ったと認められた者は、学則第 50 条に基づき処分を受けるものとする。

2 不正行為を行った者に対しては、当該期の試験欠席を除く全ての試験評価を不合格とする。

3 前項の規定により、評価が不合格となった科目の再試験受験資格については教授会の議を経て決定する

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

2 本規程施行の前日から引き続き在学する者にあつては、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2 本規程施行の前日から引き続き在学する者にあつては、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 23 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。